

なんたん 社協だより

2017.9

第35号

すべての住民のこころが輝く福祉のまちづくり



広がる福祉教育 現在、南丹市の学校や施設で福祉について学習をする取り組みが積極的に進められています。今回の表紙では、6月に園部第二小学校で行われた手話体験、車いす体験の様子（左側・右側上段）と、8月に長生園で行われた夏休み福祉体験教室の様子（右側中・下段）をお伝えします。

目次



南丹市社協マスコット
「ニャンたん」

シリーズ「地域の未来をデザインする。」……………	2～3
赤い羽根共同募金 ～集めた募金は南丹市で～ ……	4～5
あなたのまちの応援団……………	6～7
善意のご寄付／社協会費お礼……………	7
ニャンたんが行く！あなたのまちのふれあいいきいきサロン……	8

福祉の視点から考える、これからの南丹市 ～「地域福祉ワークショップ」を開催しました～



私たちが生活をしている南丹市。この場所で生活をしているすべての人びとが、より自分らしく、そしてより豊かに生きていくためには何が必要でしょうか？

南丹市の現状、困っている状況を話し合って新たな支え合いのしくみを作っていく為に、地域ごとに住民の方々に話し合っていました。



4つのテーマから南丹市を考える

南丹市と、南丹市社会福祉協議会が共同で策定する、第3期南丹市地域福祉計画・地域福祉活動計画のための「地域福祉ワークショップ」を6月に開催しました。6月11日（日）の美山会場を皮切りに、17日（土）八木会場、18日（日）日吉会場、25日（日）園部会場と開催し、延べ約140名の地域住民の方々が参加しました。

グループ討議では、「見守り」「居場所・活動拠点」「地域防災」「移動支援」の4つ

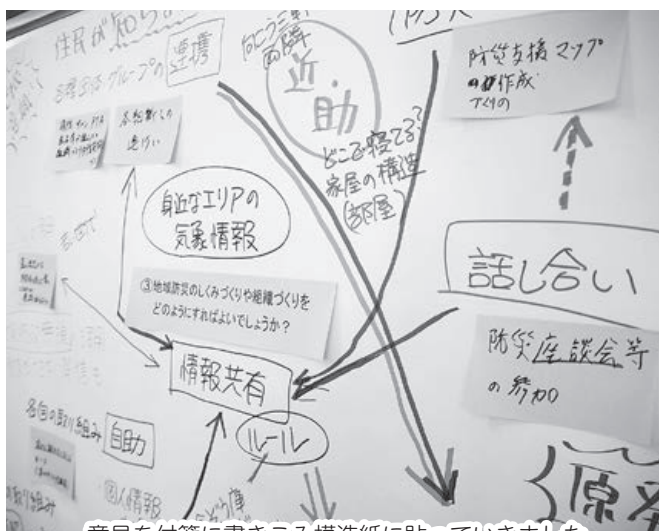
のテーマを設け、各地域の現状・課題や解決の方法について話し合いました。その意見を模造紙に集約し、最後にはそれを発表しました。

開始当初は緊張感のあった会場でしたが、時間が経つにつれ、どの会場も白熱した議論が行われました。各グループの発表の際には皆さん「おー」「なるほど」と発表者の意見に熱心に耳を傾けていました。

「見守り」グループ

見守りが必要な人はどのような人か、という問いから話し合いがスタート。「一人暮らしの高齢者は見守りが必要」「夫婦が夜遅くまで働きに出ている家庭では、子供が夕方一人で家にいるため心配」などの意見が挙がりました。

現在の見守り活動の改善点も多く挙がりました。特に多く見られたのは「近所同士で日ごろから積極的なあいさつや声かけが必要」という意見でした。また「地域住民と行政、社会福祉協議会との情報共有も大事だ」という意見もありました。



意見を付箋に書きこみ模造紙に貼っていききました

「居場所・活動拠点」グループ

さまざまな居場所の形として、移動カフェ、移動持ち回り食事会、協同菜園で野菜作りなどたくさんアイデアが出ました。

また実際に廃校になった小学校を活用したサロンや、集落単位で定期的集まっておしゃべりする機会を設けている地域も多くみられました。

しかし一方で「やっている人の負担にならないように助け合いが必要」「歩行困難な人のために送迎が必要」などの意見もみられました。



発表では皆さん熱心に耳を傾けられていました

「地域防災」グループ

自分は近所に住んでいる人のことをどのくらい知っているのだろうか、という視点から地域防災を考えました。「昔から住んでいるご近所さんの事は分かるが、最近引っ越してきた若い家族の事は分からない」「いざ災害が起こった時に、どの家に誰がいるかは分かったほうが良い」などの意見が挙がりました。ある区では自主防災組織を立ち上げ、ネットワークづくりに努力しているという活動事例も紹介されていました。

「移動支援」グループ

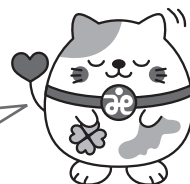
「電車や市営バス、デマンドバス、福祉タクシーの利用では、行きたいところ（買い物、病院、銀行など）に直接行けない」「利用したいが本数が少ない」「タクシーは高額」「バス停が遠い」などの現状が出ました。

また「住民が公共交通機関をもっと利用することも大切。住民への周知や制度の改善をしてほしい」「高齢者の免許返納が増えつつある。家まで来てくれる住民タクシーのようなものはできないか」という意見も挙がり、住民と行政との協働の必要性について話し合われていました。

各会場のグループ討議の様子で感じたのは、参加者全員が地域の将来を真剣に考えているということです。参加者からは「今回のワークショップのみで議論を終わらせないでほしい」「これからも幅広い世代が南丹市の未来について、同じテーブルで意見を交わすきっかけにしていってほしい」との声も上がりました。

今回出た意見をもとに、南丹市と社会福祉協議会で計画策定に向けた話し合いをすすめています。

ご参加いただいた皆様
ありがとうございました



赤い羽根共同募金



集めた募金は南丹市で

皆さまからご協力いただいた赤い羽根共同募金の約7割は、南丹市の町を良くするために使われています。残りの3割は都道府県域の広域的な活動や災害支援に使われています。

地域内のボランティア活動やサロン活動への助成のほか、地域の住民が主体的に取り組まれる活動を公募し、区長会、民生児童委員協議会や市議会の代表者などで構成された審査委員会を経て、それらの活動に助成しています。

共同募金運動は、地域の人々が安心して暮らせるよう地域の課題を解決し、地域福祉を推進していく運動です。



募金運動期間 29年10月1日～29年12月31日

(30年1月～3月はテーマ型募金等新たな募金を推進する期間です)

戸別募金 区長さんを通じて各家庭に募金を呼びかけさせていただきます。

街頭募金 人の集まる場所で募金を呼びかけることや、募金箱を設置します。

法人募金 社会貢献の一環として企業等に募金を呼びかけます。

※南丹市では赤い羽根募金と歳末たすけあい募金を同時に呼びかけさせていただきます。

※募金の使い道の詳細は

「はねっと」にも掲載しています。

[はねっと](#)

[検索](#)

「募金を地域へ」募金を助成した団体に活動内容をお聞きしました

ボランティアグループ活動助成から ～給食ボランティア あじさいの会(園部町)～

Q：助成金はどのように使われましたか？

A：ミルミキサー（回転調理器）の購入や、園部町つつじの会と研修交流した際の材料を購入しました。

Q：どのような成果につながっていますか？

A：月1回の活動ではありますが、ご利用者の方々とのつながりに一役担えたと思います。今後は、より手作りにこだわり、安心・安全を心がけてお弁当を届けたいと思います。

Q：募金していただいている皆様に一言お願いします。

A：今後も喜んでいただけるお弁当を真心こめて作りたいと思います。ありがとうございました。

28年度助成額：10,000円

* 赤い羽根募金（一般募金）から



ふれあい弁当がつくられ、ひとり暮らしの方や高齢者世帯の方に届きます。

じぶんの町をよくする活動助成から ～京都ボランティア学習実践研究会～

Q：活動されている内容を教えてください。

A：平成20年から主に美山町で高齢者世帯の日常生活を支援するボランティア活動をしています。京都市内の大学生世代の若者たちが、宿泊を伴った共同生活のなかで実践するワークキャンプ方式^(注1)で、側溝の泥上げ、草刈りや雪かきなど、高齢者世帯の様々な生活課題に対応しています。その活動の中で高齢者と若者との交流を図っています。

Q：助成金は具体的にどのような活動に使われましたか？

A：佐々里地区内での盆踊りの実施支援と地区内のお寺の清掃活動、知井地域内での草刈り、桜の手入れ、側溝掃除や雪かきの他、交流サロンを開催しました。その中で必要となった物品の購入等に使用しました。

Q：どのような成果につながっていますか？

A：地域の活性化につながる支援活動が実践できたとともに、学生たちが美山や支援集落の現状を理解する学びの機会を得ることができました。特に平成28年度は近年にない大雪となり、美山町内の多くの雪かきニーズに対応しました。今回の活動でワークキャンプの認知度がさらに高まり、信頼関係も深まったと感じています。



雪かきの様子です。

28年度助成額：100,000 円 * 赤い羽根募金（一般募金）から

(注1) 自ら共同作業を体験しながら現地の人々と交流するボランティアの形態

歳末サロン活動助成から ～杉の子サロン(八木町)～

Q：助成金はどのように使われましたか？

A：行事案内のチラシづくりや、材料費、お茶菓子代等に使わせていただきました。

Q：サロン活動は地域内でどのような成果がありますか？

A：年々参加者も増えて、毎回30～35名の出席者があります。地域内での交流によって、高齢者同士、無理のない見守り活動、心が通じ合う活動となっており、認知症予防にもつながっていると思います。これからも、地域でできることを考え、協力者と共に仲間の輪を広げていきたいと思っています。

Q：募金していただいている皆様に一言お願いします。

A：気軽に参加いただけるようにと参加費も抑えて運営しているなか、募金を活動資金として援助していただき感謝しています。これからも地域住民の集いの場として活動していきますので、よろしくお願いいたします。



平成21年に立ち上げられたサロンです。
年間5回の行事を中心に活動されています。

28年度助成額：13,300円 * 歳末たすけあい募金から



募集 歳末たすけあい募金助成事業

歳末たすけあい募金を活用して、年末年始に行う住民同士のつながりづくりを目指した福祉活動に助成します。

対象団体：南丹市内の非営利団体（ボランティア活動、市民活動、当事者活動等を行う団体）

助成額：50,000円以内

申請期限：平成29年11月6日（月）

ニャンたんが聞きました

あなたのまちの 応援団

連載第6回

南丹市音訳ボランティア
「かわせみ」(園部町)
「やまびこの会」(八木町)
「日吉音訳ボランティア」(日吉町)
「こだまグループ」(美山町)

南丹市には長きに渡ってボランティア活動をされているグループがたくさんあります。そのひとつが音訳ボランティアのグループです。今回は、南丹市内で活動されている4つの音訳ボランティアグループ代表のみなさまに集まっていただき、お話を伺いました。



どんな活動をされていますか？

「南丹市内で発行されている広報誌（広報なんたん、お知らせなんたん、市議会だより等）を朗読・音訳し、録音したものをリスナーさん（視覚障がい者）へ届ける活動をしています。旧町ごとにグループはありますが、広報誌によって担当を分けたり、定期的にグループの代表者が集まって、今後の活動について話し合う機会を設けたり、毎年音訳ボランティアの養成講座を開催したりと、地域の垣根を越えて楽しく活動しています。また、リスナーさんと交流する機会も作っています。」



録音風景



活動を始められたきっかけは何ですか？

「音訳ボランティアの活動をする前はふれあい委員として活動をしていました。ふれあい委員の任期が終わり、せっかく出来た地域とのつながりが切れてしまうのはもったいない、と考えていた時に、音訳ボランティアの養成講座の案内を見つけ、参加してみたのが始まりです。」

「以前は小学校で読み聞かせのボランティアをしていました。ですが、その小学校が廃校になってしまい、今までの経験を生かせるような活動がないか探していた時に、この音訳ボランティアの存在を知り、見学をしに行ったのがきっかけです。」



いつから活動されているのですか？

「“かわせみ”と“やまびこの会”は昭和58年から、“日吉音訳ボランティア”は平成2年から、“こだまグループ”は平成11年から活動しています。」

「以前はグループのメンバーもリスナーさんも人数がたくさんおりましたが、今ではどちらも人数がなくなり、南丹市にお住まいの方々に私たちの活動をもっと知ってもらう必要があるな、と感じています。」



活動を続けてきた中で、良かった事は何ですか？

「視覚に障がいのある方とのつながりを持つ機会が出来たことが良かったです。音訳という活動を通じて、実際にリスナーさんはどのようなことに困って、何を必要としているのかを考えるきっかけとなりました。」

「自分自身を成長させることが出来たと思います。この活動をしていなかったら視野が狭いままだったと思います。また、大勢の仲間たちにも支えられました。」



録音機材



これからの夢・目標はありますか？

「まずは、音訳ボランティアがもっと増えることです。また、視覚障がい者だけではなく、段々と文字が読みづらくなってきた人、高齢になって文字を読むのも億劫になってきた人など、多くの人々に私たちの“声”を届けたいと思っています。この記事を読んで、少しでも興味を持っていただいた方がおられたら、今年も音訳ボランティアの養成講座を開催しますので気軽に参加してみてください。」

ニヤんたんの感想



取材の中で出た、「声の広報誌」という言葉が印象的でした。

「音訳されたCDを聞いてみたい!」と思われる方は是非、南丹市社会福祉協議会へお問い合わせください。



募集

音訳ボランティア養成講座を開催します

文字の読み方、録音機材の使い方について外部から講師を招き、勉強する内容です。参加費は無料です。

*オープン講座です。どなたでもご参加いただけます。

日程

第1回 9月29日(金)13:30~15:30

第2回 10月13日(金)13:30~15:30

第3回 10月27日(金)13:30~15:30

第4回 11月10日(金)13:30~16:00

第5回 11月24日(金)13:30~16:00

場所 南丹市社会福祉協議会 本所

お問い合わせ 0771-72-3220

善意のご寄付ありがとうございました

《平成29年6月1日~平成29年8月31日受付分》

中川 孝幸 様 100,000円 亡父の供養に

株式会社親愛
代表取締役 様 100,000円 福祉のために
安達 卓志

全京都建築
労働組合 様 18,232円 福祉のために
船井支部

勝田みゆき 様 100,000円 亡夫の供養に

京都山坊主 様 8,000円 ひよし夏祭り2017
出店の売上金の一部を福祉のために

高野 晃次 様 100,000円 亡父の供養に

廣瀬 強 様 30,000円 福祉のために

京都山坊主 様 11,270円 南丹市花火大会
2017出店の売上金の一部を福祉のために

加藤 久雄 様 30,000円 車イス借用のお礼に

匿名寄付 16件 匿名寄付計 601,227円

川内 チエノ 様 電動ベッド

平成29年度 社協会費へのご協力ありがとうございました。

総額 7,195,500円 (平成29年8月31日現在)

ご協力いただきました会費は地域福祉をはじめとする社会福祉事業の推進に有効に活用させていただきます。今後ともよろしく願いいたします。





あなたのまちの ふれあい いきいきサロン

なか せ き

中世木いきいきサロン(日吉町)

開催日：1ヶ月に1回

場 所：中世木公民館

ニャンたんは、日吉町中世木の「中世木いきいきサロン」へ遊びに行きました。

この日のサロンは、七夕祭りでした。初めて地域の子もたちが参加し、みんなで短冊に願いごとを書いたり、飾り付けをしたりしながら、交流しました。



参加者はまずくじ引きで席を決めます。顔見知りのメンバーばかりで、すぐに会話が盛り上がっていました。ゲームや食事など季節に応じたお楽しみのあとは、みんなで作ったダンベル(あずき入り)で毎回体操しています。男性も毎回7名ほど参加されています。

うちのサロン自慢

なか せ き

中世木地域は、「みんな中世木(なかよき)」と言われるくらい仲の良い地域です。住民の団結力が自慢です。

“ニャンたん取材にきてほしい〜”という
サロンや団体、行事などを募集しています。

発行

社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会

本 所 〒629-0301 南丹市日吉町保野田垣ノ内11番地 ☎ 0771-72-3220 FAX 0771-72-3222
(代表) メールアドレス na_shakyo@cans.zaq.ne.jp

園部事務所 〒622-0014 南丹市園部町上本町南2番地22 ☎ 0771-62-4125 FAX 0771-63-5606
八木事務所 〒629-0134 南丹市八木町西田山崎17番地 ☎ 0771-42-5480 FAX 0771-42-4412
日吉事務所 〒629-0301 南丹市日吉町保野田垣ノ内6番地4 ☎ 0771-72-0947 FAX 0771-72-0732
美山事務所 〒601-0722 南丹市美山町安掛下8番地 ☎ 0771-75-0020 FAX 0771-75-0829

ホームページ

南丹市社協

検索